

# 1 再エネポテンシャルと導入実績の比較

REPOSを活用し、南丹市の導入ポテンシャルと導入実績を把握しました。南丹市は太陽光発電、風力発電、水力発電の追加導入の可能性が高いことが分かります。

再エネの導入ポテンシャル

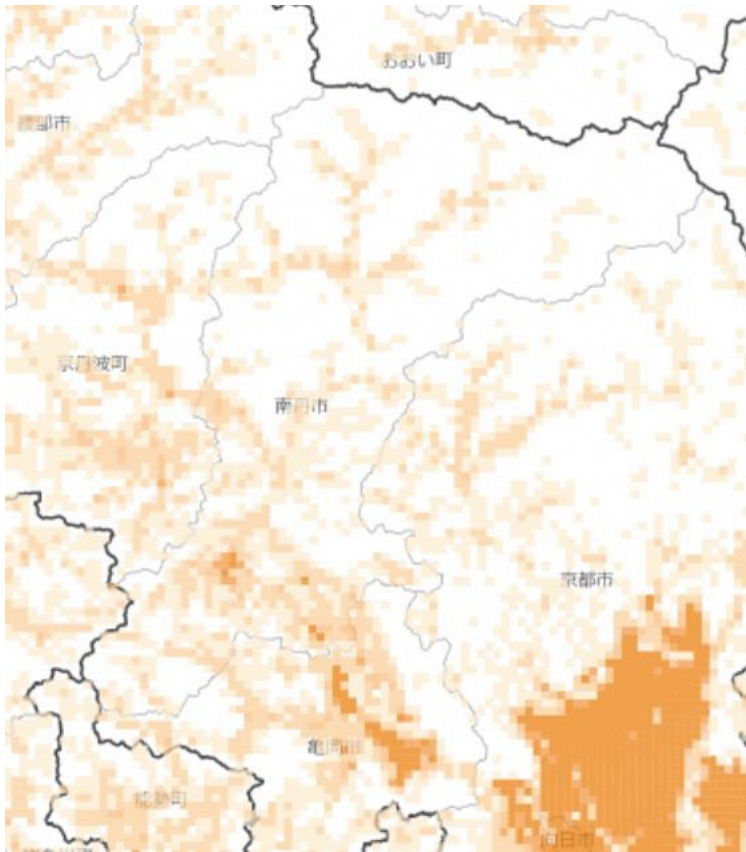
大区分	中区分	導入ポテンシャル	単位
太陽光	建物系	241.0	MW
		298,457	MWh/年
	土地系	702.1	MW
		869,332	MWh/年
	合計	943.1	MW
		1,167,790	MWh/年
風力	陸上風力	614.2	MW
		1,709,684	MWh/年
中小水力	河川部	2.055	MW
		12,187	MWh/年
	農業用水路	0	MW
		0	MWh/年
	合計	2.055	MW
		12,187.360	MWh/年
合計	1,559.369	MW	
	2,889,660.851	MWh/年	

再エネ導入実績

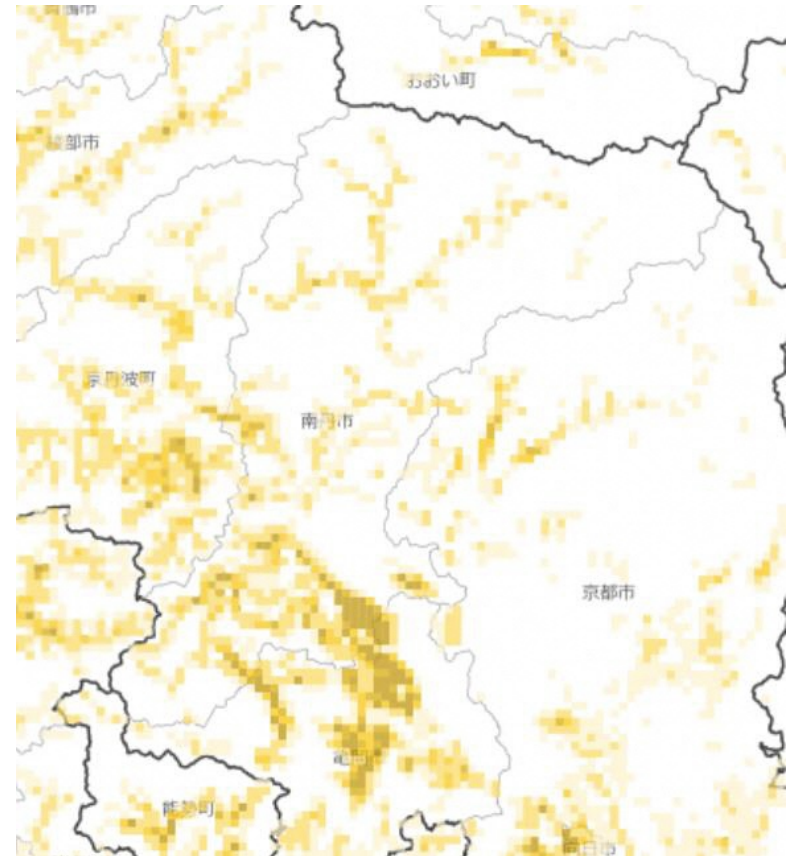
大区分	中区分	導入実績量	単位
太陽光	10kW未満	4.5	MW
		5,404	MWh/年
	10kW以上	34.1	MW
		45,126	MWh/年
	合計	38.6	MW
		50,530	MWh/年
風力		0	MW
		0	MWh/年
水力		0.85	MW
		4,478	MWh/年
バイオマス		0.155	MW
		1,086	MWh/年
地熱		0	MW
		0	MWh/年
再生可能エネルギー（電気）合計		39.625	MW
		56,094.847	MWh/年

## 2 太陽光発電の導入ポテンシャル

建物系も土地系に関しても太陽光発電は南部の方がポテンシャルが高いことが分かります。



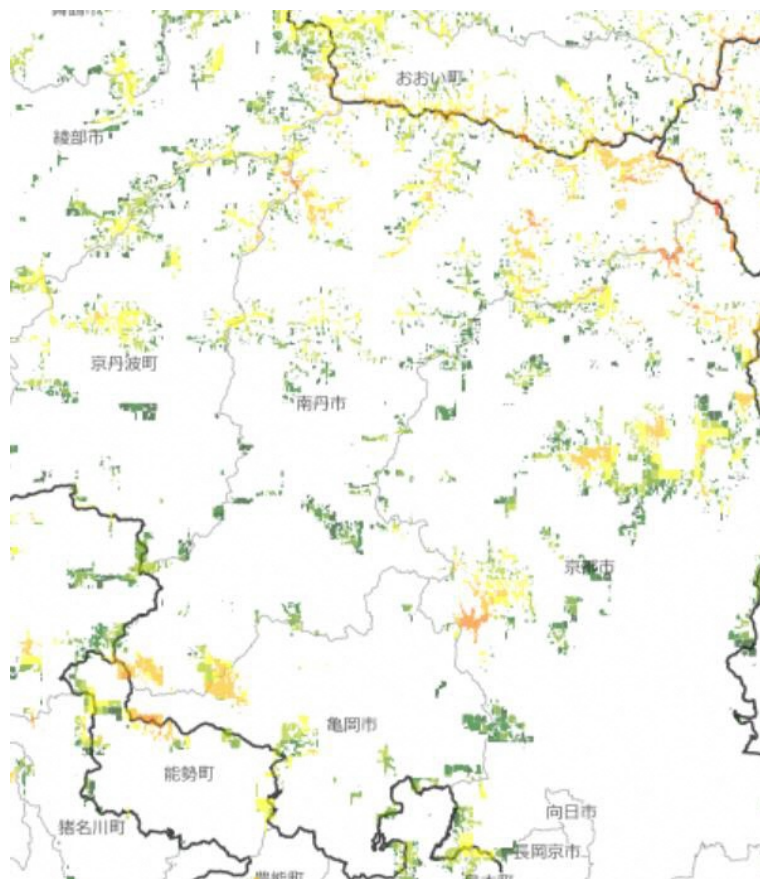
建物系の導入ポテンシャルの可視化



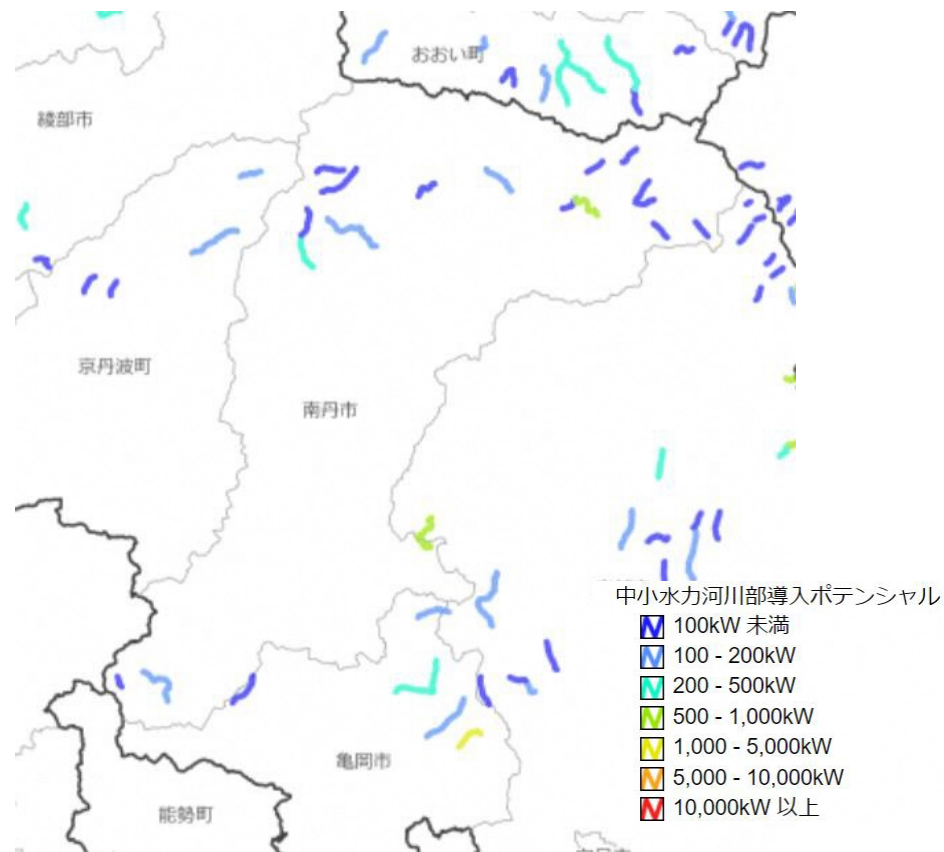
土地系の導入ポテンシャルの可視化

### 3 風力発電と水力発電の導入ポテンシャル

風力発電と水力発電は北部の方がポテンシャルが高いことが分かります。



風力発電の導入ポテンシャルの可視化



水力発電の導入ポテンシャルの可視化

## 消費電力量の将来推計

2030年には消費電力量は一旦増加するが、2040年に向けては減少する傾向となっています。

